

26日 金曜

創世記

14:17 アブラムが、ケドルラオメルと彼に向かう王たちを打ち破って戻って来たとき、ソドムの王は、シャベの谷すなわち王の谷まで、彼を迎えて来た。

14:18 また、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。

14:19 彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。

14:20 いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。

14:21 ソドムの王はアブラムに言った。

「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」

14:22 アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地を造られた方、

【主】に誓う。

14:23 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。

14:24 ただ、若い者たちが食べた物と、私と一緒に行動した人たちの取り分は別だ。アーネルとエシュコルとマムレには、彼らの取り分を取らせるように。」

アブラムの戦力が連合国軍隊に勝るはずもありませんが、ロトへの無条件の愛のゆえに、また神様からの祝福の約束のゆえに戦いに出てゆき、見事に勝利しました。これに対して、メルキゼデク王は眞の祭司でもあったので、これは神の勝利であることを告白し、その神のゆえにアブラムを祝福しました。



聖書の記述

そしてアブラムは、神への感謝のゆえに、祭司としての働きを敬い、メルキゼデクにささげ物をしました。

一方ソドムの王は神なき価値観で行動しています。始めの段階でソドムは敗戦国です。古代ではアブラムのように勝利を収めるなら、そのまま国の支配者になんておかしくありません。または相当の財産や領土や奴隸を要求するものです。しかし、ソドムの王が言った「取ってください」は命令形で、彼が威厳を保ったままアブラムと取引きをして、譲歩を引き出そうとしていることがわかります。そこには神への感謝や畏敬ではなく、ただ自分を守るために、目に見える部分で画策している人間の姿があるのです。

アブラムは、支配者になることもせず、また財産を手に入れることもしませんでした。ただ、主の栄光を表し、「自分富ませたのはソドムの王ではなく、全能の神である」という証を選んだのです。

また、だからと言って自分の行動を、他の立場の人々にまで押し付けませんでした。同盟を結んでいたアーネルとエシュコルとマムレには、ふさわしい取り分を要求したのです。

メルキゼデクのように神のみわざに目を向けましょう。アブラムのように、神の働き人を尊重し助けましょう。また良識ある行動によって平和と証を立てましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

